no.16

CLCからしだね書店便り

4 2022 April

ＣＬＣからしだね書店では…

1. キリスト教書が中心ですが、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
2. お洒落 でかわいい雑貨や小物もあります。
3. ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
4. コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。
5. 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、お好きな本を手に取ってお読みください。
6. 古書のコーナーもあります。ほりだしものあります。
7. 読書会や著者を招いての講演会など、人と人とが出会い、つながる「対話」の場を提供します。

「読書感想本」

『「自由」はいかに可能か 社会構想のための哲学』

苫野一徳 著
ＮＨＫブックス　１３００円（税別）

厳しい世界を生きる私たちに、「哲学」から希望の灯を灯す一冊

長らく刷られなくなっていた『自由はいかに可能か』が増刷されることになりました。２０１４年発行のこの名著が、名著にふさわしい位置に復帰したことを祝したいと思います。

あえて断言しますが、この本は、戦争、パンデミック、災害、環境破壊、テロ、貧困等、様々な問題が切羽詰まった形で噴出する現代、私たち必読の「教養書」と言える本です。　理由は一言で言えます。

民主主義の設計図を描いた哲学者たちが連綿と受け継いできた、「デモクラシー（民主的であること）」を起動させるための叡智（エッセンス）が、これでもか！というほど結晶化されている本だから。

今このタイミングで、再販されることになった理由も、そこにあるのだと思います。

歴史上のどんなに偉い哲学者でも、歴史の風雪に耐えてきた強靭な洞察を語る面と、時代の変化にはなかなかフィットしない独断的な見解を語る面を持っています。この二つを選り分けるのは容易ではありません。そこに、本書の出番があります。

デモクラシーを肯定する人も、デモクラシーに懐疑的な考えを持つ人も、この本に書かれている内容を、今こそ読んでいただきたいのです。

もっと噛み砕いて言いましょう。

私たちは、「なぜそれが〈よい〉と言えるのか」という点についての共通した了解を必要としています。

ここが壊れてしまうと、残るのは終わることのない対立・分断・紛争・戦争です。

「よい教育とは何か」
「よい福祉とは何か」
「よい医療とは何か」
「よい心理臨床とは何か」
「よい社会活動とは何か」
「よい政治とは何か」
「よい宗教のあり方とは」

こうした「本質」を共通了解できないならば、残るのは、今まさに私たちが直面している何でもありの世界。正義と正義がぶつかり合う、「神々の戦い」の世界です。

そして、「何が〈よい〉○○なのか」という問いの答えは、それが置かれている社会によっても変わります。

つまり、「どんな社会が〈よい社会〉なのか」という点を徹底的に突き詰めておかなければ、上に挙げた〈よい○○〉はすべて土台から崩壊してしまいます。本書はその土台を懇切丁寧に、本当にわかりやすく教えてくれます。だから「必読の教養書」と言わざるをえないのです。

哲学とは、物事の意味／価値を根本から徹底的に問い直す営みです。

情報が氾濫し、一体何を信じればよいのかわからなくなっている混沌とした現代。今ほど哲学が必要とされている時代はありません。しかし、難解な古典を一から熟読するような余裕はなかなかない。

ではどうするか？

私たちは、哲学へのよきガイドを必要としています。この本は、まちがいなくその一つとなり得ます。

本書を読んで、その内容を頭に入れておくことで、私たちはだれでも「よい○○」を構想し、世に問うていくことができます。つまり、誰もが「哲学」を始められるのです。

一人一人が「よい社会」について自分で考え、発信し、共通了解を目がけて交流していけるようになれば……。おそらく、ここが、解決の糸口が見えにくい現代社会における、希望の始発点になります。

（ＣＬＣ書店のお客様　Ｏ・Ｓ様）

京都のかたすみから見えた風景(2)

神様の開いた絵本

CLCからしだね書店　店長　坂岡 恵

お気に入りの『あいうえお絵本』を開く。
「あどばるーんの〝あ〟」
幼い私の肩ごしから、歌うような母の声。
まだ本物のアドバルーンを知らなかったころ、絵本の中で泳ぐまっかな球体に、憧れのような想いを抱いた。
ページいっぱいに広がる青空は、少し淋しい淡い色だったけれどー、
「あどばるーんの〝あ〟」
母の声ははずむように明るかった。

その母が亡くなったのは、十月。気持ちの良い秋晴れの日だった。
家の中を静かなざわめきが行ったり来たりしていた。
「なにかあったん?」
と四才の私。忙しげに箪笥を開け閉めしていた叔母の手がふと止まる。
「おかあちゃんがな、死んでしもた」
抑揚のない声だった。
「うそやろ」
と笑ったら、叔母が急に声をあらげた。
「そうや、ウソや。うそに決まってる!」

四才、二才、そして母の命とひきかえに生まれたちいさなあかんぼう。あの日の私たち姉妹は大人のあわれみのただ中にいた。
「かわいそうに!」
叔父が私を抱きしめて号泣した時、私は何とかその手から逃れようともがき、それがかなわないので大声をあげて泣いた。あわれまれることや、必要以上にやさしくされることを、子どものプライドが許さなかったから。
小さな姪を抱きしめずにはいられなかった叔父の悲しみ。今やっとその心に近づけるような気がする。でも、子どもというのは大人が考えるほどに弱くはない。例えば、身近な人の死に出会ってしまった時でさえ、大人以上のたくましさでそこを通り過ぎてしまえるものなのだ。

火葬場へ向かうくるまの窓から、私は初めて本物のアドバルーンを見た。国道沿いに続く畑のはるか向こうに、ぽつんと白いビルが建っていて、そこからまっかな球体がふたつあがっている。コマーシャルをかいた布をはためかせながら、仲良く揺れていた。
「みて、あどばるーんや!」
と私は大喜びで叫んだ。それぞれの想いにとらわれていたからだろうか。大人は誰も口をきかなかった。

おかあさんをなくしてしまった子どもへのはなむけに神様がひらいてくれたパノラマ絵本。のんきにその風景を楽しんだのは、四才のころの私と、さっさと天国に行ってしまった母と―、二人だけだったのかもしれない。
秋空は、どこまでも明るく深い青だった。

《Information・インフォメーション》

◆カフェスタッフ自慢の春限定、いちごのパウンドケーキ、研究を重ねて作り上げたカレーうどん（大好評につき期間延長いたしました）などなどご用意しております。◆先月から「ガンバレ子どもたち・参考書で応援プロジェクト」は現在店舗奥にて開催中。玄関から入って右側奥の本棚裏です。お役に立てれば幸いです(^^)◆ウクライナへの侵攻がはじまり、市民に影響が出ています。支援のために出来ることをすすめています。

「ウクライナ難民を支援する会」
https://www.aid4ukraine2022.com

「国際ＮＧＯオペレーション・ブレッシング・ジャパン」
https://www.facebook.com/operationblessingjp/

日本で暮らすロシア人のために 緊急のお祈り・支援のおねがい

様々な立場の弱者を支援しているＮＰＯ法人 ＣＷＳ（Church World Service）ジャパンから、在日ロシア人の方々が置かれている厳しい状況をお聞きしました。

① 仕事をクビになる、研究発表の場を失う、子どもがいじめられるなどの扱いを受ける人が出てきた。
② ウクライナの報道を見るにつけ、自分の国に裏切られたような思いがする。ロシア人であることを恥じる気持ちになり、アイデンティティが崩壊しつつある。精神的に病み、うつになる人が増えている。
③ ロシアでは、反プーチンを罰する新律法が次々にできている。日本で反戦の意見を発信したら、本国の家族のところにロシア警察が来て、「日本にいる娘を犯罪者として認定した」と言われた。
④ 日本に永住権を持たないロシア人で、反戦運動をした人は、ロシア政府に「犯罪者」と認識され、パスポート更新手続きができないだろう。今後の日露関係によっては、就労ビザの更新も難しくなる。ロシアに帰国したら逮捕されるので、帰国を拒否する⇒オーバーステイとなり、日本の入国管理局に収容される可能性あり。
⑤ 反戦運動をしたロシア人はすでに「犯罪者」と認識されたので、ロシアには帰国できない。日本に帰化を希望しても、本国から「無犯罪証明書」を発行してもらう必要があるそうで、もはや帰化の申請もできない立場となっています。

ウクライナでのロシアの非人道的な行為は絶対に許されませんが、同時に、ロシア人の中にも非人道的な扱いを受けている（受ける可能性のある）人たちがいます。彼らの苦しみに寄り添い、彼らを守り助けるための支援と祈りが必要です。

京都市東部障害者地域生活支援センター・からしだねセンター主任
武山 世里子（精神保健福祉士・相談支援専門員）

からしだね館のひとこま ―こころ病む人の支援

NO SMOKE NO LIFE（たばこのない人生はなんて!）のSさん

今回の主人公は、Sさんです。彼女は30代後半の、笑顔のかわいらしい女性です。高校を卒業後、職を転々としながらも、20代前半まではアルバイトで何とか生活をしてきました。しかし、眠ることができなくなり、現実には存在しない内なる声に突き動かされて、他者には理解できないような行動をするようになりました。今のSさんは、たばこを吸わないと落ちつかず、たばこのことしか考えられなくなります。たばこ欲しさに万引きしたり、強引に人のたばこを奪おうとしたりすることもありました。

Sさんの毎日

精神科の病院を退院したSさんは、医療や福祉のサポートを受けながら、地域での一人暮らしを再開しました。Sさんは、お金を手にすると、それを一瞬でたばことジュースに変えてしまいます。なので、Sさんを訪問するヘルパーさんや訪問看護師さんが、その日のお小遣いを手渡しすることで、生活が滞らないようにしました。

そんなSさんは私の顔を見るたびに「なあ、お小遣い増やしてーや。」と、あの手この手で訴えてきます。Sさんにはお小遣いがなぜ増やせないのかを、何度も説明しましたが（口で説明するだけではなく、紙に書いて冷蔵庫に貼り付けた）なかなか納得してもらえません。

Sさんは、寝ている時間以外は常にたばこを吸っています。Sさんが大好きなことは、コンビニの前でたばこを吸いながら、出会った人とおしゃべりをすることです。Sさんには、3か所のスモーキングスポット（コンビニ）があります。そこで、たばことジュースを買い、親しくなったスモーキングフレンズと、晴れの日も雨の日も、暑い日も寒い日もたばこを吸いながらおしゃべりをします。

「たばこを買うお金で、カップ麺やお菓子以外のおいしいご飯を買いませんか?」「今の季節にぴったりの新しい服を買いませんか?」と提案しても、即却下されます。たばこを吸って楽しそうにおしゃべりする姿を見ていると、仕方がないか…と思ってしまいます。

たばこトラブル 連発!!!

ある日、Sさんから電話が入りました。「コンビニの前でタバコ吸ってたらな、店長に『他のお客さんに迷惑やし、もう店の前で吸わんといて』ってゆわれた」と。嫌な予感がして、急いでコンビニに行きました。穏やかな店長さんは、申し訳なさそう

な顔をして、「Sさんが、お客さんに『たばこちょーだい』って声をかけまくって…。それはやめてくださいってゆってもやめてもらえないんです。おまけに灰皿周辺でシケモクされてるので、困ってしまいました」とのこと。

またある日、○○交番から「Sさんが、たばことジュースを万引きした」との電話。

またその数日後は、町内会から「近隣の住人にピンポンして、『たばこください』と言いまくっている」との連絡。

たばこに関するトラブルが続きました。たばこがなくなった時の対処法を、Sさんと関係者で何度も話をしましたが、改善されません。「また、マンションから出て行くように言われるのかな」Sさん以外の誰もがそのように思い始めました。

あれ?大丈夫?

あれだけたばこのトラブルが続いていたのに、ピタっとそれがなくなりました。そのかわり、不特定多数の男女がSさんの自宅に頻繁に出入りするようになりました。Sさんは、「友達いっぱいできた」「たばこがなくなったら買ってくれる親切な人たちと友達になった」と嬉しそう。毎日3,4人で宴会をしているのか、多量のお酒の空き缶や食べた後の容器が部屋に残っています。

しばらくすると、その中の一人の男性を「彼氏」と呼ぶようになりました。

「彼氏」ができてからはより一層、人の出入りが激しくなりました。しばらく落ち着いていた「お金がない」の訴えも、今まで以上に入るようになりました。ヘルパーさんと買い物に行って、3日分の食べ物を買っているはずなのに、1日でなくなってしまいます。「自分で食べた」とか「友だちが来た」とか、その時々に理由はあるのですが、明らかに彼女の部屋に出入りする人たちが日常的に食べてなくなってしまうようです。深夜まで騒ぐので隣家から、騒音のクレームも入るようになりました。

アルコール、薬物、望まれない妊娠…。Sさんは大丈夫だろうかと周囲の人たちは心配しましたが、具体的な改善ができないままに数日が過ぎました。

彼女の喪失

ある日、○○警察から連絡が入りました。彼女は、自宅にいた知人の一人から暴力を受け、顔を腫らしていました。彼女と二人きりのところで理由を聞いても、要領を得ません。彼女を自宅に送り届け、暴力を受けたその部屋の様子を伺うと、ヘルパーさんが掃除をしてくれた後とは思えないほど、たばこの吸い殻やペットボトルが散乱していました。

それからも、彼女の状況は変わりませんでした。いつもお金が足りなくて、複数の男女が部屋に入り浸っています。彼女に彼氏や友人のことを聞くと、ものすごく厳しい口調で「なんでそんなこと、いちいちあんたに答えなあかんねん!」と返ってきます。少し穏やかな時の何気ない会話の中で「ちょっと前までは、彼氏がいっぱいたばこを買ってくれて、優しかった。今は時々しか買ってくれないし、彼氏の言う通りにしないと怖い」と、ポロっと口にすることもありました。Sさんに「どんな生活がしたいですか?」と聞くと、「たばこの量が減ってもう少しお金に困らへんようにしたい。ほんで、優しい人と楽しくおしゃべりして暮らしたい。寂しいのは嫌やねん」と答えました。

「優しい人と楽しくおしゃべりして暮らしたい」という彼女の願いにも関わらず、ある日、近隣からの通報で、警察が出動する騒ぎになりました。室内にいた複数の男性が暴れたため、壁やガラスが破損し、家具や電化製品も床にたたきつけられ、壊れてしまったようです。またもや、彼女と他の女性が殴られてしまいました。暴れた男性は逃げて、その場にはおらず、彼女たちのみが警察の聞き取りに応じているところでした。殴られた理由は、「わからない」、殴った本人がどこにいったのかも「わからない」と答えています。

「わからない」理由で安全が脅かされるような、綱渡りのような不安定さの中で、彼女はさまざまな「喪失」を経験しています。トラブルに巻き込まれてばかりの、自分への「信頼」、暴力を受けたり、気の進まないことを強要されることによる、他者への「信頼」、医療や福祉のサポートでもなかなか生活が改善しないことによる、社会への「信頼」、そんな喪失の毎日を暮らしています。

彼女が、トラブルを起こさず、安心して暮らし続けることって無理なんだろうか…。彼女が友人と呼ぶ人に、彼女のことを本当に大切にしてくれる人はいるんだろうか…。

この先、希望のある穏やかな生活を彼女が送れるなんて、彼女も周囲の私たちも、この時は想像できませんでした。

しかし、違ったのです。

彼女のストーリーはまだまだ続きます。次月をお楽しみに!!

障害のこと、福祉のことで「こんなことを聞いてみたい」ということがあれば、ぜひ、CLCからしだね書店（clc@karashidane.or.jp）までお知らせください。

《お知らせ・1》

◆教会や保育園、幼稚園等で、定期刊行物や新刊書、用品等のご注文をある程度まとめて頂きましたら、月1回、無料の定期便でお届けします。

◆お近くにキリスト教書店が無い場合など、ご希望により、新刊書や用品（グッズ）の訪問販売を検討させて頂きます。ご相談ください。

◆再版発行のリクエストをお寄せください。絶版した良書で、再版してほしいものがありましたら、お知らせください。ある程度リクエストがまとまりましたら、出版社に情報提供したいと思います。

《お知らせ・2》

◆からしだねの「おすすめ本スポンサー」システム◆

あなたのイチ押しの本を、店に置かせていただきます

「この本、ぜひ皆さんに読んでほしい」というあなたのおすすめ本。3か月間店頭に置いてみませんか？残念ながら売れ残ってしまったら、ご自分で買い取ってお友達にプレゼント…という仕組みです。（書店に在庫をためこまず、皆さまの「推薦良書」を広くご紹介いただける。…そうなったらいいなと思っています。）店内配置等については、当店にお任せください。種類によっては、ご希望に沿えない場合もあります。

《お知らせ・3》

◆取次店から本が入荷されるのは、水曜日と金曜日の週2回です。お客様からの注文のタイミングや、取次店にも在庫がない場合など、お取り寄せに1週間以上かかってしまうこともあり、たいへん心苦しく思いますが、少し余裕をもってご注文いただけると助かります。お急ぎの場合はお知らせください。なるべく対処したいと存じます。キリスト教書店が町から消滅しないために、あえて書店に申し込んでくださっている皆様のお気持ちとお祈りに支えられていますことを、心より感謝いたします。

《お知らせ・4》

◆HPに古書のコーナーが出来ました◆

「古書一覧リストページ」から検索できます

絶版の本もあります。おめあての本が見つかったら、ぜひご来店ください（念のため売れてしまっていないか電話かメールでご確認いただけたらと思います）

《おすすめ本のご紹介》

『雲とジュゴンの海』

かわせさちこ 著・文芸社

1100円（税込）

南の海で生まれた波がジュゴンの親子を見まもりながら旅をする物語。地球を救うたった一つのことば、平和へのメッセージが込められた絵本です。教会のクリスマス礼拝の出し物として作った紙芝居がもとになっているそうです。お申し込みは、からしだね書店まで。

古書一覧リストページ

https://karashidane.or.jp/project/job-assistance/clc-books/usedbook/usedbook-list

CLC からしだね書店

1周年記念イベントを開催

2022 5/2(月)～5/7(土)

カフェスペースにて

※写真はイメージです、仕様は変わる場合がございます。ご了承ください

数量限定 ランチボックス販売

古書

カフェスペースにて

おめあても掘り出し物も大放出 古書フェア開催!!

アート作品展示・販売会

作品に平和への願いを込め、二人の作家が発信します。

「平和をつくる」がテーマの トークイベント＆ミュージックライブ 3日間日替わりゲスト

カフェスペース or オンライン

5月4日(水) 13:30-15:30

< PEACE MAKE >

とある女性の［目の前の平和］との戦い

トークイベント

青田恵子さん・橋本久美子さん

3.11から平和をつくる

2011年東日本大震災によるフクシマ原発事件で滋賀県に避難。布絵で、失われたふるさとと反原発を訴える…。

障害のある子から平和をつくる

障害のある息子と共に歩んだ40数年間の道のり。

会場とオンラインでの参加が可能、ただし、会場はコロナ感染対策のため、席数に限りがあります。オンラインでの参加には事前のお申し込みをお願いいたします。

オンライン参加ご希望のかたはこちらまで↓

clc@karashidane.or.jp

ゴスペルシンガー 浜岡典子さん ミュージックライブ

5月3日(火) 14:00-15:00

山科のシンガーソングライター 盛武政裕さん ミュージックライブ

5月5日(木) 14:00-15:00

献本についてのお知らせ

たいへん申し訳ございませんが、
送料をご負担いただけると
ありがたいです。
（受付できないものもありますので
事前にお知らせください）

【献本をお願いしたい本の種類】

1　キリスト教書、キリスト教に関連した本（多少、書き込み等があっても、大丈夫です）
2　哲学、心理学等、人の生き方に関する本
3　社会の中で起きている問題を扱った本
4　暮らし（料理、健康、経済等）にかかわる本
5　小説（人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません）
6　漫画（人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません）

【本の送り先】

住所：〒607-8216　京都市山科区勧修寺東出町75 からしだね館
宛先：CLC からしだね書店　献本係　　電話：075-574-1001　FAX075-574-0025
Mail：clc @ karashidane.or.jp

【本と一緒にいただきたいもの】

以下の内容を記入したメモ
①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィール、献本いただいた本の感想や思い出等を一言。⑥献本くださった方のお名前を書店だよりにご紹介させていただきたいと思います。お名前の掲載は困るという方は、お知らせください。

【古本の売上を含む CLC からしだね書店の収益は、すべて、書店で働く障がい者の工賃になります】

【献本感謝】

坂岡凱歌様、和田かほる様、橋爪範子様、森本典子様、高橋正則様、浅井省二様、長谷川和雄様、岸川萌木様、荒木功様、深谷与那人様、松本勝･比呂子様、加瀬裕子様、中村弘實様、細井順様（順不同）

編集後記

■春爛漫、陽ざしは暖かく優しい風が吹く季節、門出とはなむけ、出会いと別れ…。春は陽気で明るいイメージですが、逆に、なんとなく憂うつで物悲しく、孤独を感じる季節でもあります。皆様はいかがでしょうか？■書店では、ウクライナ国旗色のピンバッチを作ったり、「バーゲン品等をご自由にお持ち帰りください。ついでにウクライナ募金をお願いします」のコーナーも作りました。募金は、「ウクライナ難民を支援する会」や「国際ＮＧＯオペレーション・ブレッシング・ジャパン」等に支援金としてお送りします。■ふるさとを失くし、暮らしを失くし、親しい人を失くし、思い描いていた将来を失くし、国を追われている人たちに思いをはせながら、ただただ平和を祈る毎日です。【店長】

「ウクライナ難民を支援する会」
https://www.aid4ukraine2022.com/

「国際ＮＧＯオペレーション・ブレッシング・ジャパン」
https://www.facebook.com/operationblessingjp/

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね
就労継続支援Ａ・Ｂ型事業所からしだねワークス
からしだね書店＆カフェ・トライアングル
〒 607-8216 京都市山科区勧修寺東出町 75 からしだね館
書店電話番号　075-574-1001　ＦＡＸ　075-574-0025
書店メール　clc@karashidane.or.jp

CLCからしだね書店だよりの
バックナンバーはこちらから